

クラス	Q311	担当教員	吉原 智恵子
テーマ	人間関係に関する諸問題		
著書・論文 研究課題等	<p>〈著書〉「現代社会を社会心理学で読む」ナカニシヤ出版（2009）永田良昭・飛田操（編）（第4章 認知的な矛盾の統合における他者との関係の意義 p. 49-64）, 「自己心理学 社会心理学へのアプローチ」金子書房（2008）下斗米淳（編）（第7章 社会的文脈における自己概念の変容と動機づけ p. 123-133） 〈論文〉「友人関係の進展過程におけるパーソナリティの類似性認知および一致・不一致事象の変化について」日本福祉大学研究紀要 現代と文化（2014）他</p> <p>〈研究課題〉認知的葛藤の処理に関する研究</p>		
<b>ゼミナール概要</b>			
キーワード：対人関係，社会的行動，社会的認知，集団			
<p>[目的、内容、方法]</p> <p>人間関係にかかわる諸問題を研究テーマとしてとりあげ，3年次は卒業研究のリサーチクエスチョンを明確化し，予備調査や第一研究まで行うことを目標とする。4年次には学びの集大成として卒業論文を完成させる。授業は報告・討論の形式で行うため，各自プレゼンテーションやディスカッションのスキルを向上させることが求められる。</p> <p>[授業の進行プラン]</p> <p>3年次前期に全員で社会心理学のテキストや論文を輪読し，基礎的な知識を養う。後期は各自が卒業研究のテーマを設定するための関連論文を選定し，その内容の発表と全体討論を行う。これらの学習を踏まえ，研究計画を完成させるとともに，予備調査や第一研究のデータ収集を行う。4年次前期は各自の進行に応じてさらにデータ収集を行い，後期は結果・考察のまとめと卒業論文の執筆を行う。</p> <p>[これまでの卒業研究の主なキーワード]</p> <p>母子関係，父子関係，友人関係，教師と生徒の関係，いじめ，孤独感，自尊感情，コミュニケーション，ソーシャル・サポート，ストレス・コーピング，障碍，育児，リーダーシップ，ジェンダー，対人距離，流行，自己開示，自己愛，同調行動，ステレオタイプ等（過去の卒業研究テーマリストを閲覧したい人は申し出てください。）。</p>			
<b>担当教員からのメッセージ</b>			
<p>卒業研究は質問紙調査法，実験法，面接法，観察法等によるデータ収集に基づく研究を原則とします。そのため「心理学実験・実習」や「心理学統計法」, 「心理データ処理演習」等の科目を履修していることを望みます。また数年後に社会人になることを意識して，ゼミ活動は主体的，能動的に取り組み，コミュニケーション力を磨く心構えを持って欲しいと思います。そしてダメ出しにめげない「打たれ強さ」を期待します。失敗は成功へのステップ。研究活動やゼミの様々な活動を通して，大きく育ってください。</p>			